（様式－3）

再 発 防 止 対 策 書

関東支部

発　生　日　時	令和6年10月4日（金曜日）16 時00分頃							天　候	雨	
災害の程度	死亡　－　名		負傷　1　名		職種：送電土工		年令38才		経験年数5年8ヶ月	
工事の種類	調査測量	伐　採	運　搬	仮　設	基　礎	組　立	足　場	架　線	撤　去	その他
災害の種類	墜落・転落	転　倒	物の飛来・落下		崩壊・倒壊	はさまれ・巻き込まれ	切れ・こすれ		感　電	その他
原　　因	作業準備の不良	作業方法の不良	工具防具の不良	電気工作物の不良	作業者の過失	共同作業者の過失	その他			
設　　備										
件　名	モノレール設置作業終了後、巡視路外を下山中に転倒負傷									

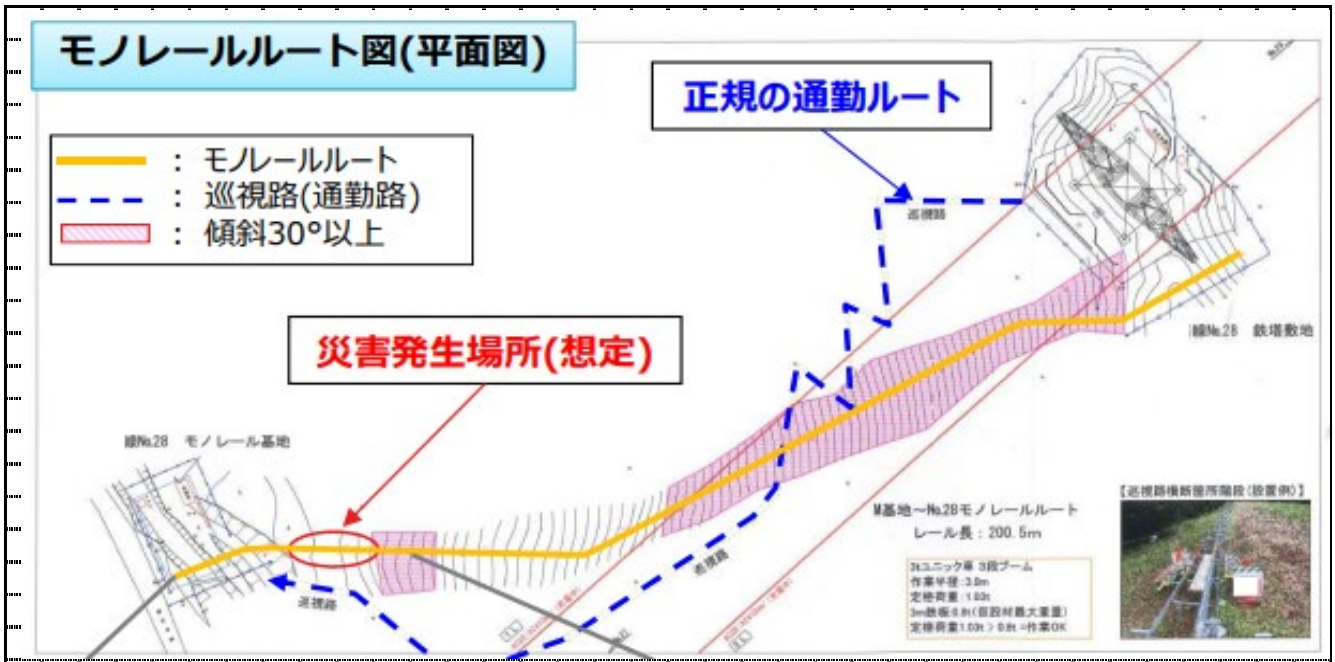
災害の状況	・モノレール設置作業終了後，他作業員と共にモノレール基地へ向かうため巡視路を下山した。
	・被災者は途中で一人休憩した後（他作業員は休まず下山），下山を再開した。
	・巡視路とモノレール交差部付近で急こう配且つ滑りやすい巡視路よりも安全だと判断し，モノレール沿いを補助レールを手すり代りにして下山。途中で足を滑らせ転倒した際に，モノレール支柱に右腕が接触し，右肘内側を切創した。
	[被災程度]右上腕挫創，右上腕蜂巣炎
	[装　　備]ヘルメット，作業服（上下），安全長靴（滑り止めなし），手袋，ヤッケ
原因及び対策	1. 災害発生の主原因
	・降雨の影響によりスパイク無し長靴へ履き替え，作業に従事していた。
	・巡視路が安全に歩行できるよう整備されていなかった。
	・下山時に１人になってしまった。
	2. 再発防止対策
	・滑りやすい箇所での移動や作業時は，滑りにくい靴を使用する。
	・事前に歩行ルートを確認し，危険箇所を把握する。
	・山地歩行時は，近道行動・予定外行動をしないよう教育資料等を活用し教育する。
	以　上

（注）1.　「人身災害報告要領」に基づいて記載するものとし、「工事の種類」「災害の種類」「原因」については該当項目に〇印を付ける。

2.　災害状況の説明と共になるべく図面を添付すること（様式－2）。特に感電の場合は支持物、電線の離隔距離その他寸法を記入する。

（様式－2）

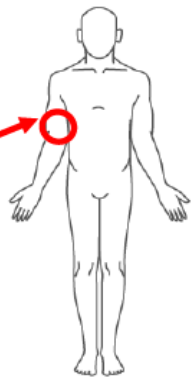
災　害　概　要　図



【右肘内側　切創】

■診断結果

・20mm×40mm
　L字型に切創
　6針縫合処置
壊死性筋膜炎・右上肢
皮膚軟部組織感染症



被災者は，モノレール設置作業終了後，他作業員と共に巡視路を下山中，休憩のため他作業員と離れ，巡視路ではないモノレールルート沿いを移動していたところ，以下写真のように足を滑らせ転倒し，その際に，モノレールのレール支柱に右手が接触し，右肘内側を負傷